

## 情報システムの効率化、高度化に向けた取組指針

現在、区の情報システムは、全部で 215 システム、サーバ数で 347 台を数える規模に拡大し、管理運用業務の軽減、情報システム経費の削減、災害時における事業継続性の確保などが課題になっている。そこで、これらの課題を解決するため、今後 10 年間に於いて取組む方針を、以下のとおり定める。

### ＜取組方針＝目指すべき情報システムの実現に向けて＞

区全体の情報システムを体系的に整理します。そのために、仮想化技術（※1）を活用した、共通基盤（※2）を構築します。区の各システムは、原則として、その入れ替え時期に合わせて、共通基盤上に順次集約していきます。一方、共通基盤上で運用しないシステムについては、ASP・SaaS（※3）をはじめとする外部のクラウドサービス（※4）の利用を推進していきます。

なお、共通基盤化は、サーバ（※5）から着手します。また、システムごとに配備されている端末の統合についても、可能なものから進めていきます。

### ＜効果＞

#### 1 業務所管課の負担を軽減します。

共通基盤の管理については、一括して情報政策課が行うことにより、業務所管課のシステム運用に係る負担を軽減します。

#### 2 特定の業者への依存を排除します。

共通基盤の導入や国が定めるデータの仕様である「中間標準レイアウト」（※6）への準拠を進めることにより、業務システム開発業者の新規参入をやすくして、競争性を高めます。

#### 3 経費を抑制します。

共通基盤上に移行するシステムについては、機器台数の大幅な削減や業務システムの調達における競争性の向上により、移行前と比較して概ね 2 割の経費削減を目指します。

#### 4 災害時の事業継続性（※7）を向上させます。

共通基盤の設置場所については、災害対策やセキュリティ対策が整った民間のデータセンター（※8）を利用することにより、災害時の事業継続性を向上させます。また、遠隔地に別のデータセンターを設け、主たるデータセンターが機能しない場合に処理を代替できるシステム構成を目指します。

- ※1 **仮想化技術** 物理的に一つである機器を、あたかも複数であるように機能させる、あるいは、逆に複数のものを一つとして機能させる技術。
- この技術を使えば、たとえば、一つの物理的なサーバ上で複数のシステムを稼働させることができるため、サーバ台数を節約できる。
- ※2 **共通基盤** 複数の業務システムが、同一の装置や基本機能を共有する仕組み。
- ※3 **ASP・SaaS** (Application Service Provider Software as a Service エイエスピー サービス) システムを保有せず、利用料を払って、インターネット等のネットワークを通じて、業務システムを利用するサービス形態。一般的に、複数の利用者が共同利用することなどにより、経費が低く抑えられる。
- ※4 **クラウドサービス** システムを保有せず、利用料を払って、インターネット等のネットワークを通じて、システムのサービスを利用するサービス形態の総称。前述のASP・SaaSの他、ハードウェアと基本ソフトウェアを利用するPaaS(パース)、ハードウェアのみを利用するIaaS(イアース)がある。
- ※5 **サーバ** 各端末装置(クライアント 一般的にはパソコンが使われる)からの通信に基づき、データの処理を行う装置。
- ※6 **中間標準レイアウト** 総務省が定めたもので、自治体業務システムの切り替えに伴うデータ移行時に、全国の自治体が共通的に利用できるデータ構成やデータ項目の仕様。
- ※7 **事業継続性** 災害時に事業が継続できること。情報システムについては、障害が発生せず、発生しても速やかに復旧できる場合、事業継続性が高いといえる。
- ※8 **データセンター** 各種のコンピュータやデータ通信等の装置を設置し、それらを管理・運用することに特化した建物の総称。災害時にもサービスに影響が出ないよう、建物自体が耐震構造となっているほか、自家発電装置を備えている等の特徴がある。